

平成29年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 日本文化論 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>問題は計三問で、本専修での学修に不可欠な能力・知識を多角的に量ることを意図したものである。</p> <p>問一は、主として日本古典文学史に関わる学術的文章の読解力・批評力・論述能力を、問二は、古典の文章の基礎的解釈力とあわせて、変体仮名の理解度も同時に試す問題。また、問三は、日本古典文学を研究する上で必要となる漢文の解釈力をみる問題である。</p>

平成29年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 日本文化論 全3枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 3枚、解答用紙 3枚を配付する。
問題は三題あり、解答は問題一・二・三についてそれぞれ別の解答用紙を用いること。

問題一

次の文章は黒田日出男『歴史としての御伽草子』（ぺりかん社、一九九六）の一節である。
読んで文学研究の立場から自由に論じよ。

※ 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 黒田日出男『歴史としての御伽草子』（ぺりかん社 一九九六）一四頁～一六頁

問題二

次の文章は『出世景清』四段目の一節である。読んで設問に答えよ。

※阿土屋は夫である景清を裏切ったことを悔やみ、牢中の景清に許しを請うたがかなわず、ついに二人の子供とともに自害する。その後、阿土屋の兄、伊庭十蔵が現れる。

かくとはしらでいはの十蔵。かぢはらが取なしにて。せうくくくんこうにあづかり若たら小ものあまたつれ。ゆえんより帰りが此ていを見てきもをつぶし。長は扱。しなしたりく。みびんのことを見るものかな是もふらひ共。我此こと御をんしやうをうけ。ゑいようゑいぐはにさかゆるまきやつら世にあら申たため。此比方々尋しかどもゆきがたのなかりしが。扱は何ものそくんしうをおこしがいせしか。たらしはたぐしがはからひと覺えたり。よし何にもせよなをかげきよにいひふん有。先々しがいを取をけどかたはらにはうもらせ。ろうやにむかつて立はたかり是さいもつむご殿。いつかにうらみあればとて。けんぎいのつまこをあくせんといふぞせ。うでかなはずはなごいきほねでもたごせるぞ。ないくは基くんが命を申うけ。出家せさせんと思ひしがもはやほつてもならぬく。まふらひちくしやう大だはけといかつはいて申ける。かげきよくつくとまき出しこりやうろたくもの。あのもの共はをのれがとんよくしんをかなしみ。しがいたるがしらせるか。それさく有にらぬめが口からまふらひちくしやうとはだが事ぞ。命をおしむ程ならばかゝる大事をたくむべきか。まつたいけぞと思ふ程ならばぐるくはしらの五十や百。此かげきよが物のかすと思はるか。しんぢらにくほんおんきやうとくじゆするうれしたに。なごきみ半分たろうしやしてあるものを懸高懸きたるたはことつき。一言とはかばつかみひしいですんずとはつたにとらんで申さるれば。十蔵かんらくとわらひ。其いましめにあひながら

幸此比けんびきいたきにもつとつかんでもらひたしとそらうそふいてぞぬたりける。かげきよはらにすくかねいで物見せんといひもあぐず。なむ手せんげん生々世々。一もんぬやらがうめつちんさい大し大ひくはんおんりまご。こんがうりきを出しゑいやつと身なるひすれば。大くき大なははらくずんとまれのいた。

- 注 かぢはら — 梶原景時(あるいは景季も含めた親子)を指す。
- たぐし — 景清のもう一人の妻である小野姫の父。熱田の大宮司。
- かゝる大事 — 源頼朝に二太刀の恨みを晴らし、平家の恥辱をすすぐこと。
- けんびき — ここでは償滞りの意。

- 問一 傍線部イ・ハをそれぞれ現代語訳せよ。
- 問二 傍線部ロについて「まきやつら」とは誰のことを明らかにした上で、どのような意味か説明せよ。
- 問三 二重傍線部について、どうして景清は「くつくとまき出し」たのか、その理由を説明せよ。
- 問四 本文中のくずし字の箇所を、必要があれば濁点を補って翻字せよ。
- 問五 『出世景清』の文学史的意義について述べよ。

問題三

次の文章は、荻生徂徠『弁道』の一節である。読んで設問に答えよ。

善悪皆以心言之者也。孟子曰、「生於心而害於政」。^A豈不
至理乎。^B然心無形也。不可得而制之矣。故先王之道、以礼
制心。外乎礼而語治心之道、皆私智妄作也。何也、治之者
心也。所治者心也。以我心治我心、^C譬如狂者自治其狂焉。
安能治之。^D故後世治心之説、皆不知道者也。

問一 傍線部A・Cを平仮名のみ書き下し文に改めよ。

問二 傍線部Bは、どういうことか説明せよ。

問三 傍線部D「後世治心之説」はなぜこのように評価されるのか、説明せよ。